

# 大声で泣き叫び、自傷行為を繰り返す利用者への支援

静岡県立富士見学園 多田直樹

## 要旨

静岡県立富士見学園は、障害者支援施設で、生活介護、自立訓練（生活訓練）、施設入所支援のサービスを提供している。利用対象者は、主に特別支援学校高等部を卒業した方で、重度知的障害者が中心である。現在員の半数以上が重度支援（強度行動障害）の認定を受けている。

今回の研究の対象者は、特別支援学校高等部を卒業し、富士見学園に入所したが、大きな声で泣きわめき、頬を叩いたり足を床に打ち付けるなどの自傷行為が、入所前から繰り返している。対象者は自傷行為により頬が腫れあがり、足からの出血が絶えないのが現状である。また、大声に反応した他利用者が不穏になる。それを軽減させるため、色々な取り組みを行っている富士見学園の様子を伝えたい。

## 1 目的

対象者は、重度支援（強度行動障害）の認定を受けている。特別支援学校在学中から大声や自傷行為が毎日繰り返されている。富士見学園に入所している現在も、その行為が周りの利用者を不穏にさせ、自身も怪我をする。これらを軽減させるため、不穏となる時間やきっかけなどをアセスメントし、その結果を反映させた視覚化構造化を取り入れた支援の研究を行った。今回の取り組みでは、成功や失敗の例が様々であるが、それに至る職員の努力を発表したいと考えている。

## 2 方法

富士見学園に入所したのだから、その日課に乗り、皆と一緒に行動すべきである。またそれを言葉で「伝えた」という、管理的な考えから脱却し、その人に合った動き方や、伝え方を考えていった。視覚化構造化を元に、いろいろな方面からアプローチをし、その支援方法を探っていった。

### (1) 状況確認

いつ、どんな状況の時に問題行動が起こるのかを記録し、問題の原因となることを確認した。

### (2) アセスメント

まずはアセスメントを丁寧に行い、その人の持っている強みを確認し、どうやって伝えることが1番良いのかを考えた。富士見学園ではコンサルタントを招聘し、研修をしている為、それをもとに環境設定や行動の仕方を考えていった。

### (3) 支援内容検討

アセスメントで明らかになった強みや

弱みを理解したうえで、どのように支援していくのかを組み立てた。

### (4) 実践・検証

検討した内容を実際に行い、再検証することを繰り返す。

### (5) プライバシー保護について

施設入所時に、研究発表をする際の同意書を取っており、名前や顔を隠すことで、プライバシー保護の配慮を行った。

## 3 結果

色々な取り組みを行ってきたが、以前からも続いてきている問題行動であり、直ぐに改善するという事には至らなかった。変化の見られたことについては今後も引き続き行っていき、更に検証を行い、より良い方法に改良していく必要がある。また、それが失敗と決めつけることはできないと思うが、うまく結果が出なかったことがとても多かった。

## 4 考察

今回、結果が出なかったことがとてもたくさんあった。視覚化構造化や、個別の支援には、とても時間がかかり、その成果も少ないと、職員のモチベーションが下がる恐れがある。チームで課題に取り組んでいくことで、分担して支え合いながら取り組み、モチベーションを維持していく必要があると思った。

## 5 まとめ

今回の取り組みを行うことで、更に続けて研究を深め、将来的には色々な場面で、研究発表が出来るようになりたいと思っている。